

2012（平成24）年度後期 DUO リーグ会議②議事録

【日 時】 2012（平成24）年12月23日（日） 17:00～19:00

【場 所】 筑波大学附属高校会議室

【出 席】（代表者名。下線は遅刻）

都小石川（長山）、昭和一（穂坂）、三菱養和（杉尾）、京華（小金丸）、都向丘（北洞）、筑波大附（中塚）、学習院（玉生）、豊南（小寺）、本郷（岩野）、城西（嶋野）、豊島学院（早川）、郁文館（井上）、駒込学園（川上）、巢鴨（山中）、立教池袋（橋本）、獨協（上田）、淑徳巢鴨（石原）、都竹早（蓑田）、日大豊山（亀井）、都文京（松田）、都足立（安藤）、都江北（蓑輪）、足立学園（伊藤）、都荒川商業（中野）、中大高（加藤）、文京区中学生選抜（武藤）、FC西巢鴨03（岸弘）

【欠 席】 都豊島

【オブザーバー：選手】

谷田部・楠本・三山・蓑輪・大久保（筑波大附）

【オブザーバー：一般】

吉田（駒込）、馬場（巢鴨）、稲垣（文中選）、栗原（東京リゾ&スポ）、佐藤（リサイクルプロジェクト）、丸山（文中選）、遠藤（足立学園）

【議事録作成】 三ツ矢（事務局）&中塚確認・修正

【議 題】

I. 2012年度後期 DUO リーグについて

- 1) 経過及び結果報告
- 2) 各賞選出
- 3) 昇降格の確認

II. 各部門より

1. 事業部門
2. 管理部門
3. 企画部門

III. DUO リーグ将来構想について

<DUO リーグ会議ダイジェスト（決定事項を中心に。詳細は下記参照。）>

◆2部リーグ MVP は2部リーグ優勝チームから選出する

◆優秀審判賞

市川大二郎君（城西2年）、藤井雄介君（本郷1年） 中原綾介君（巢鴨2年）

◆特別賞

なし

◆3月に DUO リーグ主催の審判講習会を予定

◆2月下旬から3月にリバーサイドリーグとの交流戦、または講習会を予定

◆将来構想委員会で話し合われた以下の4点について承認決定

①「上へつながる」リーグは“前期”のみに行う

②“後期”には「上へつながらない」、DUO リーグ独自の競技会を新たに実施する

③組織としての「DUO リーグ規約」を明文化し、メンバーシップを確立する

④2013年度、2014年度のチェアマンを、引き続き「中塚義実」とする（ただしこれがラスト）

◆次回の DUO 会議までに以下の5点のことを進める

①「組織としての DUO リーグ」規約作り

- ②予算編成
- ③前期リーグの準備
- ④後期イベントの準備
- ⑤2012年度の各事業の実施及び2013年度の見通し作り

◆2012年度後期 DUO リーグアウォーズ

日時：2月24日 16:20～

場所：筑波大学附属高等学校

◆2013年度前期 DUO リーグ

日時：2月24日 17:00～

場所：筑波大学附属高等学校

◆来季の1部リーグは、今季の2部リーグから3チームが昇格

◆地区トップリーグの全都展開を中止する方向で、DUO リーグとして賛同

議題 I . 2012年度後期 DUO リーグについて

1) 経過及び結果報告

中塚：12月末日までリーグ戦が行えるということで、まだ全試合を終えていないリーグもあります。各リーグの運営と進捗状況を、DUO リーグより上位にあるリーグ状況も含めて報告を進めていきたいと思います。最上位リーグである高円宮杯 U-18 サッカーリーグ 2012 プレミアリーグ East に三菱養和が参加しています。

杉尾：三菱養和は今期で2年目の参加になります。最終戦でようやく残留を決めました。今回のプレミアリーグ East は北海道で2チーム、東北は青森山田高校の1チーム、その他は関東と東海のチームで、多くの部分が関東のチームで占めていました。なので、プレミアリーグ East も、関東プリンスリーグも同じようにレベルの高いものとなりました。リーグ戦の内容については、昨年同様下位2チームが関東プリンスリーグに降格となっています。

中塚：その下のカテゴリーには関東プリンスリーグがありますが、そこには DUO リーグ関係のクラブは参加していません。更にその下が T リーグです。T2 に足立学園、T3 に本郷、都立、都豊島が参加しています。

伊藤：結果は10チーム中8位でした。勝つことがなかなか難しいシーズンであると感じました。足立学園にとって、高体連の試合も含め、難しい1年になったと思いました。来年に向けて頑張りたいと思います。

中塚：本郷、都立、都豊島は遅れているようなので、到着次第報告をしてもらいます。次に T リーグの下の地区トップリーグについてです。地区トップリーグには今年から学習院が昇格し、また同一クラブの B チームの受け入れも始まったので、三菱養和も参加しているようです。

玉生：順位は資料の通りです。現在、順位決定戦を行っている最中です。T3 にはグループ A とグループ B の1位のクラブが昇格し、B チームも T リーグに参入できるようになりましたので、FC 東京の B チームも T リーグに昇格していきます。また、グループ A とグループ B の2位同士の野津田高校と実践学園の勝者も T リーグに昇格します。

来季は8チーム×3リーグで行うことが決まっています。現在まで22チームで行っていましたが、24チームに増えます。T リーグとの昇降格が同数の場合、地区トップリーグでは6チームを降格さ

せ、各地区から合計 8 チームを昇格させる形で 24 チームにします。しかし来年度から地区トップリーグには同一クラブから 2 チーム参加することができなくなります。駒沢大学高等学校と関東第一高等学校が、B チームと C チーム両方参加していましたが、両校とも B チームが T リーズに昇格することができませんでしたので、C チームが残留圏内だとしても降格になります。よってグループ A からは関東第一高等学校 C、八王子高等学校、早稲田大学高等学校が降格し、グループ B からは駒沢大学高等学校ミドル(C チームに相当)、城北学園高等学校、大森学園高等学校が降格します。

三菱養和 B チームと学習院は、地区トップリーグに残留となりました。

T リーズについて、来年、再来年と形が変わっていきます。2013 年度は変わりませんが、2014 年度からは T2 も 10 チーム構成のホーム&アウェイで実施することになっています。これは JFA からの指示です。参加チームの多い 2 部に相当するリーグもこの様な形でやるよう指示がありました。T2 に 20 チーム参加していましたが、10 チームとなります。よってかなりのチーム数が降格する形になります。そこに対応するため、2014 年度から T4 を立ち上げる方向で決まりそうです。

そしてこの T リーズの状況を受け、地区トップリーグでは全都展開をやめようと思っています。そのような場合に、4 つのグループに分けて実施することが上位リーグ、下位リーグとのつながりでより良い形になると考えています。また全都展開をやるに当たっては、イーストとウェストに分けた形か、E リーズのようなスタイルを他の地区でも実施してもらうかのどちらかで考えています。

そこで、DUO リーズの参加クラブがこのことに対してどのように考えているかを、少し時間をいただいて伺いたいです。その意見をまた地区トップリーグにもって帰り議論したいと思います。

中塚：補足ですが、JFA がリーグ戦文化の推進をかなりのスピードで推し進めています。2005 年宣言では、2015 年までに各都道府県において U-18、U-15 のリーグ戦をつくることが示され、その流れの中で動いているものです。各都道府県の、上から 2 番目のカテゴリーまでは通年のホーム&アウェイによる実施をするよう JFA から指示があり、その結果 2014 年度から T1、T2 までは通年のホーム&アウェイで実施することとなり、10 チーム編成するようになったわけです。それに伴って地区トップリーグをどのように見直していくかという話です。現時点で意見がなければ、後の議題「DUO リーズ将来構想」の中でもう 1 度伺いたいです。

○1 部プレミアリーグ

中塚(宮坂代理)：リーグ戦の実施状況は星取表をご確認ください。本日の試合で都江北 A が勝利したため、現時点で 6 勝 1 分けです。2 位の京華の試合は 12 月 27 日ですので、その結果でプレミアリーグの結果がすべて出そろいます。

プレミアリーグについては、年内に全試合を終了予定です。問題点としては選手権や都大会および新人戦で勝ち上がったチームがあり、予定されていた試合が予定通り消化できず、日程の変更が多く、年末の 1 週間で 4 試合をこなすスケジュールとなってしまった。また新人戦の試合が入ると思われていた 11 月の 3、4 日について、リーグ戦の日程の組み直しを認めても良かったのではないかと思います。

○1 部プリンスリーグ

穂坂(永井代理)：新人戦の日程を考慮しながら日程を決めていきましたが、雨天のため試合が延期になることが多々あり、現在でも未消化の試合がいくつかあります。今後は雨天にも対応できる余裕のある日程を組みたいと考えます。

中塚：今季の印象として、プレミア、プリンス両リーグについて、星取表を見てもらうとわかるとお

り、拮抗していない試合が多いと思います。10点差がついてしまうような試合が同じリーグの中にあるのは、組み方に問題があるのか、原因はわかりませんがなんとかしないといけません。

○2部Dリーグ

中塚：丹羽さんが来ておりません。副責任者は駒込の清水さんですね。お願いします。

清水(丹羽代理)：予定通り全試合を終えることができました。その他生徒全体で積極的に取り組む個所もあり、良かったと思います。

中塚：確か郁文館は9月中に全ての日程を終えてしまったと思います。そのあたりについて郁文館から補足をお願いします。

井上：日程を組む時には志村が出向きました。その際「組める試合はなるべく最初の方に組もう」ということで試合を組み、雨天等悪天候なく試合を実施していった結果、9月中にすべての試合を終えてしまいました。

中塚：リーグ期間ということを考えればどうかとは思いますが、試合消化を考えるとやむを得ないのかもしれない。公共のグラウンドを借りて試合を行う以上、この様な可能性もあるということをお頭にに入れておきたいと思います。

○2部Uリーグ

石原：日程会議において、皆さんのご協力があり日程を組むことができました。今季は週末の雨が多く、12月に入って試合消化を急ぐようになってしまいました。残りは1試合のみです。警告者も少なく、高校生審判による試合も実施できたと思います。リーグ関係者の皆さんのおかげで、今季を終了できそうです。

○2部Oリーグ

嶋野(中川代理)：先ほど他のリーグでもお話が出ていましたが、悪天候の関係で予定通り試合消化が進まない部分もありましたが、江戸川Gで試合を行えたことが非常に助かりました。また梶山先生が突然お亡くなりになられたことがありましたが、早川先生に副責任者と記録・集計担当を兼務していただきました。Oリーグの関係している方々の中で助け合ってリーグを実施できたと感じております。また各クラブの生徒が積極的に審判に取り組んでいました。審判のレベルについてもありますが、まず審判を行う生徒が出てきていることは非常に良いことだと思いますし、城西からも高校生審判を多く出せたという点でも非常に良かったと個人的には思っております。このことが本当の意味で活性化につながっていけばいいと思います。

中塚：各リーグの責任者は必ず総括を様々な角度からしてもらい、それをもとに報告するようお願いします。

2) 各賞選出

○1部、2部優勝チーム、得点王、MVP

玉生：1部リーグ、2部リーグとも全試合は終わっていません。優秀審判賞もすべてが終わったところで選出するものだと思いますので、まだ選出はしません。特別賞について、何かあれば決められると思います。

中塚：方針だけ確認しておきましょう。優勝チームは自動的に決まってくるので、全試合が終了した時点で良いと思います。次に MVP についてですが、1 部リーグは優勝チームから選出していますので、優勝チームが決まり次第、そのチームから選出し、メーリングリストで報告してください。得点王についても、全試合が終われば自動的に決まります。

2 部リーグの優勝チームに関しては、D、U、O の各リーグが全試合を終えたところでチャンピオンシップを実施し、その上で決定します。チャンピオンシップの日程については後ほど話します。2 部の MVP については優勝チームに関係なく選出することとなっていますが、ここ最近では優勝チームから選出されています。今回も異論がなければ 2 部の優勝チームから選出する形にしたいと思いますがいかがですか。

→2 部 MVP は優勝チームから選出する方向で決定

○優秀審判賞

中塚：優秀審判賞について、本来は全試合を終えてから決定しますが、すでに多くの試合は終わっています。もし現時点で選出できるのであれば選出したいと思います。審判部から何かありますか。

嶋野：先ほどの 2 部 U リーグ、O リーグの報告にもありましたが、高校生審判が多かったことから、優秀審判賞は高校生から選出して良いと思います。各クラブの代表者で、推薦があれば出してください、その上で考え、この場で決まればそれでいいですし、玉生先生もおっしゃったように全試合が終わった時点でまた新たに候補が出てくるのであれば、次の会議で決定してもいいと思います。そこで城西から、市川大二郎を推薦したいと思います。この選手は審判も含め、選手でもスターティングメンバーの 1 人です。審判活動に興味があり、DUO リーグでの表彰等の話をしたら力を入れて取り組んでくれました。

中塚：本郷高校の藤井君はいかがでしょう。

岩野：選手として頑張ってきていたのですが、8 月下旬に骨折をして現在でもリハビリ中の選手です。なにかしらの形で関わりたいということで、審判の勉強をするよう勧めました。1 試合私が見せて、そのあと練習試合や DUO リーグで審判をさせていますが、御覧の通り最後の方で 2 あたりの評価がついてしまっています。これは 10 月の試合で選手同士の衝突があり、救急車を呼ぶ事態になりました。その時に審判をしていた藤井君は動揺してしまい、ジャッジが定まらなくなってしまいました。そのあたりも含め勉強もさせています。この間も合宿で 3 試合ほど審判をやらせました。

中塚：巢鴨高校の中原君はいかがでしょう。

山中：1 部プレミアリーグで 1 試合、プリンスリーグで 2 試合、2 部 O リーグで 3 試合審判をやっています。

中塚：中原君の審判は何回か見たことがあります。初めはどのように動いていいかわからないようでしたが、アドバイスをすると忠実に守り向上しようという姿勢が見られます。中原君はいいのではないかと思うのですが。

嶋野：今思いつきましたが、2 部のチャンピオンシップで審判をやらせてみてはいかがでしょう。他に何か選出方法があればご意見ください。

中塚：特に1人に絞らなければいけないというわけではありません。意欲があり、できるのであれば全員を表彰しても構いません。ただ藤井君のような選手はもう少し様子を見て良いのかなとも思います。

DUO リーグは基本的にいいことの表彰はためらわない方向で行っていますので、3人全員表彰しても良いと思います。

→市川大二郎君（城西2年）、藤井雄介君（本郷1年） 中原綾介君（巣鴨2年）に決定

中塚：この3人には審判服を贈呈します。審判服は、審判部でお願いします。

嶋野：了解しました。

○特別賞

中塚：特別賞は何かありますか。

→特別賞はなしに決定

3) 昇降格の確認

中塚：1部プリンスリーグの下位2チームが降格し、2部の上位2チームが昇格することになります。

玉生：基本的にはそうですが、来年度の形式が決まらないことにはわからないところもあります。

中塚：ではこの話も後ほどしましょう。

議題Ⅱ．各部門より

1. 事業部門（玉生事業部長）

1) 競技部（玉生事業部長）

玉生：今季までの内容としては、今確認した通りで問題ないかと思います。今後に向けてですが、この後の初来構想でのお話での内容となるので、ここでは取り扱わなくていいと思います。

2) 審判部（◎城西・立教池袋・日大豊山）

嶋野：審判講習会についてです。今年度の3月にDUOリーグ主催の審判講習会を予定しています。

日程はまだ確定していないので、確定次第メーリングリストで報告し、参加者の募集をしたいと思います。場所は城西で行うことを予定しています。

また、2部リーグでの報告にもありましたが、今季は高校生の審判が多かったです。日程調整会議の時にお願いはしましたが、生徒に審判を積極的にやらせ、ハーフタイムや試合終了後にアドバイス、レクチャー等を行って頂きたい。生徒がやらされているのではなく、生徒にとっても有意義な機会、時間となるようにしたいです。

3) 技術部（◎都小石川・豊島学院・都竹早）

長山：前期リーグで指導者講習会を行いました。後期リーグでは特に活動はできませんでしたが、2月下旬か3月に、リバーサイドリーグとの交流戦、または講師をお招きしての講習会の企画を予定しています。

2. 管理部門（中塚（梶山事業部長代理））

1) 経理部（◎足立学園・豊南）

伊藤：資料のグレーの箇所が、未納のものになっております。早めに入金をお願いします。また各事業の決算中間報告がありますが、将来構想委員会の会議等もまだあるようなので、具体的なものは出しておりません。年度末が近付きましたら、会議への参加等を伺います。

2) 広報部（◎淑徳巣鴨・都向丘）

石原：おかげさまで2012年度後期もプログラムを作成することができました。将来構想委員会で様々なご意見が出ていますが、こちらとしても経費が削減できる部分があればしていきたいと考えております。

3) 規律部（◎京華・駒込）

小金丸：2012年度後期においては、退場の報告はありませんでした。選手たちが正々堂々と戦ってくれた結果だと思います。

3. 企画部門（中塚(丸山企画部長代理)）

1) 医・科学活動推進部（◎郁文館・養和・本郷）

井上：特に今のところ企画はないですが、技術部の講習会と合わせて、東京リゾート&スポーツと調整を進めて講習会の実施を考えております。

中塚：東京リゾート&スポーツから何かありますか。

栗原：本校の施設の利用をしていただいたクラブがありました。11月から本校の教員と生徒が入り、フォームチェックやトレーニングチェックをしたりメニュー提供したりしました。他のクラブさんでもスタジオやプールを使うことができるので、ご連絡いただければと思います。

2) リサイクルプロジェクト&地域活動推進部

山中：本日筑波大附の工芸教室にて、靴磨き講習会を行いました。簡単に報告をします。午前の部では5クラブ61名、午後の部は重複を含めて5クラブ53名の高校生が参加しました。計9クラブ114名の参加がありました。また2月のイベントデーでも企画を考えております。

中塚：本日の靴磨き講習会は大盛況でした、参加した生徒が会議にも出席しているので、感想をお願いします。

楠本：普段からスパイクの手入れはしていますが、磨くだけではわからないような靴に関する知識を教えてください、勉強になりました。

三山：最初は靴磨き講習会と聞いてスパイクではなく革靴を磨くものかと思いました。普段から僕はスパイクをあまり手入れしたことがありませんでした。ですが今日靴磨き講習会に参加して靴の仕組みや、履き心地が悪い時の原因についても教えもらい、勉強になりました。

中塚：今年度ももう1回あると思いますし、次年度以降も続けていく予定です。

議題Ⅲ. DUO リーグ将来構想について

中塚：クラブ代表の方にはメーリングリストで第1回から第4回までの将来構想委員会の報告が流れていたと思います。そして12月12日に第5回将来構想委員会が開かれました。本日はその報告もしたいと思います。5回目はこちらから声はかけずに、参加したい方、意見を述べたい方に来てもらいました。

最も大きな議題はDUOリーグシーズン問題です。その他にも17年間やってきた中での組織疲労、事業の継承がうまくいかない問題もあり、全体の見直しを含めた議論となりました。

まず参加者からの情報及び意見交換ということで、はじめて将来構想委員会に参加したから意見をもらいました。また玉生先生からTリーグの今後の話もしてもらい、それらすべてを踏まえて議論をしました。

今までの議論の発端は、地域リーグから全国リーグまでつながったことです。これにより上位リーグとの昇降格が生まれ、現在の方法では不公平な要素が出てきてしまうということで、良い方法を探す議論をしましたが、第4回までに提示した以上の案は出てきませんでした。

もし1シーズン制にした場合のデメリットは、試合数が減ってしまうことです。よって現在の後期に当たる時期に何ができるのかが最大の課題で、そのあたりの議論もしましたが決定的な案は出てきていません。初めは後ろ向きな議論もありましたが、後期をうまく活用することで、先駆けとしてDUOリーグから発信できるものがあるのではないかと、ということで前向きにとらえる意見も出ました。

そこで将来構想委員会からの提案です。チェアマンもこの将来構想委員会で話し合われた議論を支持します。つぎの4つです。

①「上へつながる」リーグは“前期”のみに行う

- ・4～8月末までにすべて終える。具体的には、3月末から7月末までにリーグ戦を実施し、8月末までに順位決定戦を実施する
- ・リーグ成績は、次年度の昇降格に反映される。優勝チームは「靴型のトロフィー」に刻まれる。

②“後期”には「上へつながらない」、DUOリーグ独自の競技会を新たに実施する

- ・12月末までに終える（サッカーシーズンは12月まで）。
- ・実施委員長を置く。委員長候補は「岩野英明」

③組織としての「DUOリーグ規約」を明文化し、メンバーシップを確立する

- ・DUOリーグを支えるメンバーは誰なのか、というところをはっきりさせる。

④2013年度、2014年度のチェアマンを、引き続き「中塚義実」とする（ただしこれがラスト）

以上4つの提案です。その他資料の「チェアマンからの問題提起」を読んでいただき、質問がある方はしてください。

嶋野：この問題提起というのは、チェアマンからの4つの提案が通った上での問題提起ですか。

中塚：そうです。その他提案の補足も含まれています。4つの提案を考える際、その他合わせて考えるべきことも記載してあります。オブザーバーの高校生は話についてきていますか。

谷田部：はい。

中塚：亀井さんどうでしょうか。前回のDUOリーグ会議でも疑問があるとおっしゃっていましたが。

亀井：私は将来構想委員会には参加していませんが、今日来るまでは1シーズン制になるのかと思っていました。

中塚：通年のホーム&アウェイは地域リーグでは現実的ではないですね。後期については岩野さんからアイデアをお願いします。

岩野：この資料を見る限り、「前期主体になってしまうんだな」と感じると思います。ですが現在の後期に当たる部分を発展させていかないと、DUO リーグは後退してしまいます。DUO リーグはリーグの最先端であり、ユースリーグを引っ張っていかなければならないと思っています。そこで、後期に当たる部分は新チームとなっていることが多いです。新チームを強化するという目的で、いろんな試みができるのではないかと思います。そこで出た案が、W杯方式やソサイチの様な8人制ハーフコートゲームでチームを強化していく形です。ハーフコートであればグラウンドが小さいクラブでもグラウンド提供ができます。毎年異なることを試みても良いと思います。様々な意見をもらい、1歩前へ進んでいきたいと思えます。まだ後期に何を行うかは決まっていないので、様々な意見をいただきたいです。

嶋野：審判という視点からです。審判講習会を実施して、審判の資格を与えるところまでは毎回実施しています。そのあと更新をするのは選手の意志によるところが大きいです。資格を与えても、アフターケアまでできていないのが現状です。現状であれば他の審判講習会と一緒にです。やりたい人がやれば良いとは思いますが、資格を取得した後、実践レベルにまで引き上げることも必要かと思えます。後期リーグでは審判部が主催する試合を設けて、様々な先生方に高校生審判をみてもらい、アドバイスやレクチャーをする機会があるといいと思えました。

中塚：ここで提案の③についての補足です。前期リーグは前期リーグに参加する人の参加費で運営されます。後期リーグは後期リーグに参加する人たちの参加費で、その中でできる事業を行うこととなります。例えば審判講習会には審判講習会に参加する人が費用を負担します。その事業に対してお金を払い、その見返りをもらうという意味です。各事業完結型ということになります。現在まではクラブからの加盟費と個人からの参加費をいただいてリーグという組織そのものを支えるようなイメージでいました。そのイメージがあるので、事務局が年間を通して DUO リーグを支え、様々な講習会も意欲的に開催することが可能になっていました。しかしその部分があいまいになっていました。そこで「クラブ」と「個人」というところをしっかりと見直し、メンバーシップをしっかりと確立したいです。

もう少し具体化します。お手許に「東京都ユースサッカーリーグ規約-2005年度からのNPO法人化を視野に入れた案」という資料があると思います。これは、2004年度からの立ち上げを目指していた東京都全体のリーグについて、理念に賛同するクラブが加盟し、チームを編成して参加する形をイメージしたもので、組織としての規約の案です。その上で、リーグ戦の実施要項が、レベル別に示されています。DUO リーグの実施要項は、いまのところ、メンバーシップを規定する規約と、競技会の運営に関わる実施要項を一緒にして、きわめて簡略化した形で示していますが、これを整理して示そうかと考えています。つまり DUO リーグという組織はどういうものなのか、目的、事業、会員はどのような人たちなのかを明確にしたものを改めて作成します。そしてそれに賛同する人やクラブが入会し、その人たちが DUO リーグの今後の方向性を話し合っていくようなイメージです。

加盟した人がそのまま参加者と一致すればいいが、加盟はせずに参加する人も出てくるかもしれない。ユースリーグを整備することはサッカー協会の方針なので、サッカー協会に加盟をしていればサッカー協会が主催するユースリーグに参加する資格があります。DUO リーグへの加盟はその時点では義務ではないでしょう。つまり、DUO リーグのメンバーにはならないが、昇降格のある前期リーグへの参加を求めるチームが出てくるかもしれません。そこを受け入れる余地も考えていかないと

といけません。

現在の DUO リーグ実施要綱は、組織としての DUO リーグと事業としての DUO リーグを示したのですが、ここをはっきりさせようというのは③の提案です。

岩野：組織やお金に関しては、引き続き将来構想委員会で話し合うということですか。

中塚：そうですね。そしてまたその内容を DUO リーグ会議で話し合う形にします。

岩野：了解しました。

中塚：では提案の①～④を承認としてもよろしいですか。

→提案①、②、③、④承認

中塚：では大枠が承認されました。それでは今後の進め方についてです。次回の DUO リーグ会議までに、以下のことを進めます。

まず1つ目は「組織としての DUO リーグ規約づくり」を将来構想委員会で進めます。

2つ目は加盟費、会費が決まる「予算編成」です。まず経理部にこれまでのものを整理してもらって、事務局及び将来構想委員会で話し合いたいと思います。

そして前期リーグの準備を改めてやらなければいけません。3つ目は「実施要綱」をつくり、チームを募集、リーグ編成を行うことをしなければなりません。参加したい人やチームを募集するわけなので、現在ここにおられない方でも、高体連の2地区に関係するクラブで、リーグ加盟は考えてないが参加を希望するチームがあれば、そのことも考えなければいけないと思います。

この1つ目～3つ目は、次回の DUO リーグ会議でまでにメーリングリスト上で承認を得る形にしておかないと間に合わないと思います。

4つ目は「後期イベントの準備」です。少しずつイメージを固めていき、次の DUO リーグ会議で話をしたいと思います。また 2013 年度の見通しは、各役割で考えて頂きたい。

次の DUO リーグ会議は 2 月 24 日(日)17 時からで、DUO リーグアウォーズも同日 16 時 20 分に行いたいと思います。

2 部チャンピオンシップは都豊島 B、R.本郷、豊南の 3 チームで三つ巴戦を実施してください。

→DUO リーグアウォーズ 2 月 24 日(日)16 時 20 分~

DUO リーグ会議 2 月 24 日(日)17 時 00 分~

玉生：リーグの進め方については、ある程度決められると思うのですが、基本的には例年通り来年度前期も行う方向で考えています。1 部を 8 チーム×並列 2 リーグで行い、順位決定戦も全て行います。

そうすると来年の 1 部参加チームは今回の結果で決まってくると思いますが、上位リーグから降格するチームがなく、DUO リーグから 1 チーム昇格します。そうすると、DUO の 2 部リーグから 3 チームを 1 部リーグに昇格させることとなります。この様に 2013 年度前期の進めていきたいと思っています。

中塚：次回の将来構想委員会の日にちですが、メーリングリストで候補日を連絡します。

では初めに玉生さんがお話した 2014 年度の地区トップリーグをどのようにするのかという話に戻ります。

地区トップリーグを東西に分けるか、2つの地区が集まって、かつてのEリーグの様な形で行うのかです。

玉生：まず地区トップリーグの全都展開を辞めるのかどうかという議論が先にありますが。

小金丸：運営の面では、全都展開がいいのか、そうでない方がいいのか、どちらがいいのでしょうか。

玉生：どちらにせよ、全体を地区トップリーグで統括しようと思っているので、いきなり細分化をしようとするのが生じるのがこわいです。もし全都展開をやめるのであれば、東西に分ける形から始めるのが運営としてはやりやすいと思います。2地区ずつで実施する場合でも、ルール等は地区トップリーグの方で決め、それに基づいて各地区で地区トップリーグを実施してもらいます。

嶋野：分け方としては、2地区ごとに分けて地区トップを実施するのがよいのではないのでしょうか。インターハイの支部予選などと異なるくくりで分けてみるのもいいと思います。

玉生：全都展開をやめるということについては、賛同をいただけるということでもいいのでしょうか。

→賛同

玉生：ではその方向で話を進めていきたいと思います。

中塚：ではそろそろ会議を終わりにしようと思います。今季始まったところで梶山先生の不幸があり、皆さん都文京のことを気にかけていると思います。松田先生その後の状況をお話いただけますか。

松田：会場のことや、審判など変わっていただいて本当にありがとうございました。現状についてですが、梶山含め4人の顧問がいましたが、実態としては、男子サッカー部は梶山ともう1人の方でやってきていました。女子は新妻と私が見ていました。ところが梶山がなくなってしまう、指導ができる新妻が男子サッカー部をみるようになり、私が女子をみることになりました。2人ですべてを回す形になり、かなり新妻に負担がかかっています。

新妻はサッカーの指導から審判まで熱心に取り組んでおり、初めは男子と女子の違いに戸惑っていましたが、その辺も慣れてきているところです。

生徒も気持ちを入れて頑張り、地区でも思わぬ結果を出すこともありました。

しかし都立の弊害として異動があります。来年度の状況がどうなるかわかりません。

色々にご迷惑をおかけすると思いますが、来年度もよろしくお願いします。

中塚：DUOリーグの仲間同士支え合っていく事ができればいいと思います。では高校生から全体を振り返っての感想、決意表明などをお願いします。

谷田部(筑波大附2年)：今回の会議に参加して、前期は上位リーグとつながり、後期はDUOリーグ独自の展開をするということがわかりました。後期には僕たちの代がどのようなチームになるのかを1シーズンを通して戦い抜くことで確認したいです。僕の代は来年度の前期で引退なので、地区トップリーグに昇格できるよう成績を残したいと思います。

楠本(筑波大附1年)：1年生は、今年は筑波大附Bとして後期に参加しましたが、初めての参加だったのでDUOリーグのことはあまり知りませんでした。しかし会議に参加して前期は上位リーグと

つながり、後期は DUO リーグ独自の展開をするということがわかり、後期の DUO リーグ独自の展開が面白そうだと感じました。

三山(筑波大附 1 年): 入学してから 7 月まで DUO リーグは毎週行われる練習試合だと思っていましたが、9 月から選手として DUO リーグに参加して、昇降格も含めてリーグ戦というものを初めて実感しました。今回の会議に参加して DUO リーグの具体的な理念や自分達にとってどんな影響があるのかを知ることができて良かったです。来年度前期には今のチームで勝って昇格していきたいと思うので、がんばっていききたいと思います。

蓑輪(筑波大附 1 年マネージャー): この会議に参加して、DUO リーグが全体としてどのように動いているのかがよくわかりました。マネージャーという立場ですが、部員を支えていく事ができればいいなと思いました。

また、今回の会議では DUO リーグのこれからのことも話し合われていました。私たちはこの会議に参加しましたが、この会議に参加していない部員やマネージャーもいます。今参加している人だけにとどめておくのではなく、仲間にもこのことを伝えていく事ができればいいなと思いました。

大久保(筑波大附 2 年マネージャー): 去年の DUO リーグ会議にも参加し、今回 2 回目の参加となりました。1 年間でどのようなことが議論され、どのようなことが決まっていたのかが今回よくわかり、とてもいい機会になりました。私はテーピング講習会にも参加して、様々なことを勉強しましたが、そのためにも様々な先生方が関わって準備してくださっていることも分かりました。そのことに対する感謝も忘れずに、選手を支えて頑張っていきたいと思いました。

議事録作成：三ツ矢

確認・一部修正：中塚義実